

新年の御挨拶

一般社団法人 全日本建設技術協会 会長

おお いし ひさ かず
大石 久和



あけましておめでとうございます。新しい年が、コロナパンデミックもなく、また厳しい自然災害にも遭遇することのない穏やかな年であり、会員の皆様にとって収穫の多い年になりますよう心より祈念申し上げます。また、ご家族のご清栄をあわせてお祈り申し上げます。

「成長と分配」を指向する「新しい資本主義」を掲げた岸田政権が発足しました。まだ、実態はほとんど見えませんが、かなりの国費を計上した経済対策を模索するなど、従来の財政再建至上主義を脱しようとする傾向がほの見えています。

積極財政論は長く封印されたままでしたが、堂々と議論できるようにもなりつつあります。これには、バイデン大統領の努力により、アメリカでは5年間で100兆円ものインフラ投資を決定した法律が成立したことも背景として効いていると考えています。

これを逃して縮小の世界に戻れば、再び世界の先進国に置いて行かれることになるでしょう。最近の総選挙で支持を得た政治の賢明な判断を期待するばかりです。

建設分野での技術環境が大きく様変わりしようとしています。デジタル、ICT、DXなどという用語が飛び交い、無人化、非文書化、自動化、三次元化などが現場の常識であるという時代がやってきました。人材不足がインフラ整備の足かせと言われて来ましたが、強力な省力化ツールが建設の世界に急速に広がってきました。

これは、施工者、測量・コンサルタントなどの世界にとどまる話ではありません。われわれ発注側技術者自身が、こうした技術変化の時代の流れを先導していかなければならないのです。

何を習得しておれば、技術者たり得るのが大きく変化する時代となりました。これを「ワクワクとする気分」で挑戦的に乗り切って参りましょう。全日本建設技術協会はそのお手伝いの先頭に立つべく努力して参りますので、大いに注文をお寄せいただきたいと思います。

今年も全建は、会員の皆様とともに歩んで参ることをお誓い申し上げます。新年のご挨拶いたします。